

学園だより

Vol.80

2006.7
Nara Women's
University



東大寺と記念館 (奈良女子大学メールマガジン-022-号より)

新入生・在校生の皆さんへ	1
久米健次	
教養広場 Liberal arts Forum	3
遺跡から過去の環境を復元する	
宮路淳子	
奈良女子大学発の 『共生科学—KYOUSEI Science』 を世界語に	三方裕司
世界のユニ／ダイバーシティ	佐野敏行
寄稿 私のチャレンジ	6
古賀文子・宮 水晶・浅野加奈	
卒業生からの寄稿	9
原点……………野々部牧絵	
ストップ・ザ・理科離れ……東さおり	
今……………宇野裕梨	
佐保会だより	12
新・再任部局長紹介・新任教員紹介	13
学生生活支援	15
後期授業料免除について	
学園だより読者アンケート	
平成18年度就職活動支援行事カレンダー	

新入生・在校生の皆さんへ

久米 健次

奈良女子大学 学長



KENJI
KUMIE

新学期も始まり、新入生や在校生の方々それぞれ目標に向けて新たなスタートを切られたことと思います。大学時代は将来の準備という面もありますが、大学時代そのものを大切に過ごし、日々を充実させていきたいと思えます。

さて、私は理学部の物理教室で過ごしていた間に、四回生のセミナーなどで、学生の皆さんの発表を聞いてきました。その際に感じていたことですが、話の巧拙は別として、学生の方が自分の納得している内容を自分の言葉で話せているときはたいへんに聞きやすく、自然に内容を理解できました。もちろん、様々な知識は外から学ぶわけですが、それを十分に自分で咀嚼・消化し、自分のものになっている時には極めて話がわかりやすく説得力をもつものです。十分に咀嚼するには、自分でよく考えて納得していることが必要です。この意味からも、他人に説明をすることは、実は説明する側にとっても極めてよい勉強になります。他人にうまく話するためには説明する内容を自分のものに行っている必要があるからです。セミナー等での発表は他人へ説明をするわけですが、実は自分の頭の整理のためでもあるのです。説明は、相手の立場を考慮して要点をクリアーにということが大事です。

ここで、自慢話を一つ。三年少し前でしょうか、物理教室で電磁気学を教えていた時に、講義に対する学生による評価の試行があつて、私はまずまず良い評価を得て大いに喜びました。

私は話が上手でもなく講義の技術も上手ありません。これには別のわけがあります。

大学院生時代に私は中学や高校で数学を教えていたことがあります。生徒の中には初歩的な小学校の算数もなかなか覚え無く、分数の足し算や割り算が出来ないこともありました。簡単なことですが、「分数の掛け算では分母と分子を単純に掛け合わせればよいのに、加減の際にはなぜ通分しないといけないのか」、「分数の割算ではなぜ分数の分母と分子をひっくり返して掛けるのか」などについて、これらをいかに一瞬で分かるように説明するかをいろいろと工夫しました。

この時に、他人に出来るだけ分かりやすく説明するにはどうすればよいか、生徒が理解する上で引っかけ点は何どこか、それをクリアーするにはどう説明すればよいのか、最も要点となっているところを要領よく説明することを考える癖がつかまりました。

これらの事柄を瞬時にわかるように説明し、そこから一挙に飛躍して関数の微積分分まで突っ走るといっわけです。こ

の時の経験がずっと身につけていて、常にできるだけ簡単に要点を示すにはどうしたらよいのかを自分なりに考えて心がけてきたことが電磁気学での学生評価でよい成績をもらった原因だと考えています。大学で電磁気、相対論や量子論を講義するときも、常にそのエッセンスを示すように気をつけてきました。皆さんも、自分で理解していることがあいまいな時は、他人にセミナーなどで話をするところを仮に想定してみるといいでしょう。そうすれば自分の理解していることと、理解が不十分であいまいなところがはっきりしてきますから。



少し脱線しますが、驚くようなことが極めて簡単に説明できることがあります。私は高等学校のときに積分を習い始めにさっぱりその内容が理解できませんでしたが、微分の逆演算を用いて面積が計算できるらしいのだけれど、それが何故かさっぱりわからない。実は、少し後になって、これがニュートンとライプニッツの大発見であって、「微分積分の基本定理」であることを知りました。何故が高校の数学ではこの辺があいまいに扱われているので、この衝撃的な大発見でもよく考えると極めて簡単なこと…が、全くわかりませんでした。こんなことはよくあります。大学に入ってから相対論の帰結として語られる有名な質量とエネルギーの等価則 $E=mc^2$ についても初めはどれも納得いきませんでした。相対論の教科書には難しいことが書いてあります。ニュートン力学を相対論的に書き換えるとでこくるようなことが書かれています。が、いまひとつよくわからない印象が残っていました。これも少し後で、アインシュタインが極めて簡単な思考実験…だったの二、三行の簡単な算術で…この結論を導いたことがわかり納得しました。講義や教科書ではさまざま説明がされますが、最後は自分が納得して頭の中に納めないといけませんね。自分なりに理解し、演習などで手と頭を動かして、考えて一歩ずつ進みましょう。螺旋階段を上って一回転進むと、一段と高い眺望が得られ、想像していたのとは全く違う風景が見えることがあるでしょう。勉強でも同じような感じですね。同じことをやっているようにも、違う観点から見たり一段と先に進むと、これまでに見えなかったことが見えてきます。

さて、国立大学は一昨年に法人化され、様々な点で変わりつつありますが、大学は優れた研究と教育がその根本にあって、それに基づいて社会的な連携を活発に行うという基本は変わらないと思います。本学も、「教育」、「研究」、「対外連携（国際連携、地域連携、産学連携など）」を三本柱に、これらを有機的に関連づけていきたいと考えています。大学から大学院に至る流れの中で、これらの活動に学生・院生・教職員の全員がそれぞれの立場での役割を果たしていくことが必要ではないかと考えています。実態的な力に裏打ちされた、一層活力ある大学を学生の皆さんとともに目指したいと考えています。「奈良」の地は世界遺産を始めとして、歴史や日本文化の宝庫です。また、奈良の文化遺産には五重塔の柔構造、大仏の鑄造、和鉄のことなど古代の先端技術など理系の観点からも沢山の面白い事柄が発見できます。そのような目で、一度歴史を見てみることも興味深いと思います。また、近くには関西文化学術研究都市もあり、国立国会図書館関西館や諸研究所など多くの文化・学術機関がありますので、それらも有効に活用され、有意義な大学時代を過ごされることを期待しています。



遺跡から過去の環境を復元する

宮路 淳子

大学院人間文化研究科 助教
比較文化専攻文化史論講座



ATSUKO
MIYAJI

遺跡には、土器・石器や住居跡・墓など人間がつくり出した人工物とともに、過去の自然環境を示すさまざまな情報が眠っています。遺跡に残された地層、植物化石（花粉、穀粒・粉殻、種実、葉材、フランク・オパール、珪藻）、動物化石（大・小型哺乳類、魚類、貝類）、昆虫類、寄生虫卵、土壌、テフラなどを分析することによって、当時の自然環境を調べることができます。

地層は環境を復元するために、最も基本的で重要なものです。地層を観察することによって、その遺跡がどのように形成され、どのように埋もれていったのかわかることができます。遺跡の環境を復元するための材料は、すべて地層の中に含まれているといえます。

植物化石からは、当時の土地利用の方法、古気候、遺跡の営まれた季節などを知ることができます。花粉分析とは、堆積物中に残存する花粉・胞子化石を抽出し、その種類と組成から、種実や葉と並んで植生や気候などを解析する手法のひとつです。人間の自然環境に対する干渉によって、植生が変化の様相などの実態に迫る方法として重要です。材からは、植生の他に、その年輪から古気候や年代を調べることができます。最近では、複数の植物化石やテフラ、理化学年代値などと組み合わせ、総合的な古環境復元が

行われるようになり、新たな知見が得られています。

動物化石からは、当時の自然動物相、水域、季節などを知ることができます。またそれらが人間に利用されたものであれば、それらの生態から、当時の人間が行った食料獲得技術、食性、生業活動、生活習慣などを調べることができます。

土壌からは、その土地がどのように形成されたか、どのように利用されていたかを知ることができます。また微細な形態を観察することによって、その地点で起こったより細かな出来事を調べることができます。

テフラは、過去の火山の爆発によって堆積した火山灰であり、それぞれに特徴をもつことから、それらを含む地層を対比するのに使うことができます。しかもテフラは広い範囲に降下し堆積しているために、年代推定の指標とすることが出来ます。テフラを使って年代を推定する方法はテフロクロナロジー（火山灰編年学）とよばれています。

環境を復元するための試料の残存状態は、遺跡の保存条件によって大きく異なります。日本列島は火山が多いために土壌の酸性度が強いので、有機質の試料は残りにくいという特性があります。しかし特に地下水位の高い湿地

遺跡では、植物化石や動物化石の遺存状態が大変良好であるために、層序にしたがってそれらの組成変化をとらえ、古植物相・古動物相の変遷を行うこともできます。

当時の環境を復元することができる、そこに暮らしていた人間と環境との関わりを目を向けることができるようになります。人間がそれらの環境にどのように適応し、何を食べどのような暮らしをし、彼らの社会をどのように作り上げていったかを知る、重要な手がかりとすることができます。



奈良女子大学発の『共生科学』 『KYOUSEI Science』を世界語に

三方 裕司

共生科学研究センター 助教教授



YUJI
MIKATA

今から五年前、平成十三年の四月に、奈良女子大学で最初の省令研究施設として「共生科学研究センター」が設立されました。総勢二人（一）の共生科学研究センター専任教員の一人として、この場をお借りして『共生科学』について少し宣伝活動をしたと思います。『共生科学』の力バーする範囲はきわめて広く、取り扱う内容も千差万別です。従って、本稿における『共生科学』の定義は、多分に筆者の私見が含まれていることを最初にお断りしておきます。

共生科学研究センター設立当時、『共生』という言葉は、現在のように脚光を浴びていませんでした。大石正初代センター長のお言葉を引用すれば、『共生』とは、動物と植物から始まり、動物と動物、動物と自然、人と自然、さらには人と社会、人と人まで含めた全ての生命体の共存を意味するもののようです。それぞれが相互に複雑に絡み合っている自然環境を科学的に解明し、将来の人類のあり方に対する新たな提言をしていくことが共生科学の目標です。例えば、いわゆる「環境問題」に対しては、その背後にはさまざまな要素・要因が関与しているのです。パズルを解くように様々な因果関係を解明することにより、現在問題となっている事柄に対する対策がおのずから見えてくるのではないでしょうか。日々盛

んになる人間活動を継続しつつ、地球環境と共生していく方策を我々科学者が考える時代なのです。そのような一見、掴み所がなく、さらに人間も自然の一部とみなすという「東洋的な」発想が英語では表現しにくいいため、共生科学研究センターの英語名称は「KYOUSEI Science Center for Life and Nature」となりました。この英語名には、「奈良女子大学発の『共生科学』 KYOUSEI Science」を広く全世界に知らしめるように努力する」という我々の気構えが込められています。

人と人との関わり合いも共生科学研究の発展には不可欠です。センター設立記念シンポジウムで総合地球環境学研究所の田高敏雄先生が「共生科学は五目チャーハンだ」とおっしゃっていました。研究分野がますます細分化される中、焼き豚、タマネギ、ニンジン、ご飯などそれぞれの分野の専門家は世界中にたくさんいるけれど、それを調理しておいしいチャーハンにする専門家はなかなかいないのだという例えです。それぞれの専門に凝り固まる必要はありません。いろいろな分野の研究者と討論することにより、今まで気づかなかったアイデアに辿り着くこともあるでしょうし、他では考えられない斬新な共同研究が実現する可能性もあります。我々共生科学研究センターでは兼任教員制度や協力研究員制度を設けて

おり、皆さんの参加をいつでもお待ちしております。

冒頭にも述べましたが、奈良女子大学共生科学研究センターが設立されて五年が過ぎました。その間、徐々に『共生』という言葉が新聞などで取り上げられるようになってきました。情報化社会である現代において、言葉が広まるスピードは圧倒的です。それに対し、共生科学研究センターニュースレター第三号に久米健次学長が書かれているように、共生科学関連の研究テーマは、長期的な観測が必要であることもあり、短期間で目に見える成果に結び付けることがなかなか容易ではありません。我々センター専任教員の力不足も否めませんが、なんとか早く目に見える成果をあげることが大切です。奈良女子大学発の『共生科学』 KYOUSEI Science』を世界語にするべく、微力ですがこれからも努力していきたいと思っています。



世界のユニ／ダイ・バーシティ

佐野 敏行

生活環境学部
生協文化学科 教授TOSHIYUKI
SANO

数ある文部科学省の支援の一つを受けて、平成十七年四月から八月まで、海外の大学と周辺地域を視察する機会をもった。一九九〇年代に広まったグローバル化の側面である多文化状況を大学生活と地域生活でみようと七カ国の大学を訪れた。視察の要点は文化的な多様性に対する対応をしているかである。しかし、この点からだけで私が専門的に関心をもった多文化状況は掴めないことを現地でも思い知らされた。多様性に対する考え方も、多様性が生じる背景もそれぞれに違いがあった。



国立デザイン大正門前の通り

訪れた主な大学は順にスタンフォード大、キャンベラ大、フィリピン大（デリマン）、国立デザイン大（アーメダバード）、ワルシヤワ大、グラスゴー大、サンパウロ大。他にもガンジー創設のグジヤラト・ヴィディア

ピス大、ポズナンの医科大、UCLA、ミルズ大学など各国で他の大学にも訪れてみた。インドとスコットランドは休暇中で学期中の訪問日程を立てるべきだった。

世界で見聞きした大学をふりかえると、各大学ともそれぞれに奮闘していて、変化してきている、あるいは、変化しようとしていることがはつきりした。変化は大学が存在する社会及び国の状況と結びついていた。多様性との対応では、スタンフォード大は九十年代に院生向け宿舎を以前より倍以上に増やし、院生の文化的多様性の重視を公言していた。文化多元主義を政策とするオーストラリアで、大学内の多様性意識を促進させる動きは高くなく、始まった改革は日本の法人化と一見逆の政府管理による大学強化だった。



スタンフォード大図書館前

東南アジア地域で力の低下を意識したフィリピン大は二〇〇五年に前の五ヶ年計画から次のそれへの移行を文化醸成の拠点として副学長五名すべて女性の体制で改革し始めていた。学生の経済状態への授業料による対応が学生の多様性と関わっていた。インドでの教育における多様性はイギリス植民地支配下の一様化で失われたもので、その再確立が課題と言われ認識を新たにした。また、インドでも大学間競争激化への各大学の対応が急務である。

文化多様性の面で日本と同様に同質的なポーランドで、EU加盟による域内の

大学間格差の是正がはかられ、学生教員の移動が容易になり多様化が進んでいる。スコットランド訛の飛び交うグラスゴーの住民の文化的な多様化は顕著で、休暇中の静かな大学では、ディスアビリティ・サーヴィスのオフィスが目についた。このサーヴィスと人種や文化背景の違いなどを包括した多様性と平等性尊重の取り組みがEU内大学交流も絡み急務のようだ。

混血を含め文化的に多様な国民からなるブラジルで1%に満たない日系人がサンパウロ大学合格者の概ね13%を占める。市の西部の広い主キャンパスに加え、東部に新キャンパスを作り、大学の発展と貧困層の多い地域の開発を結びつけていた。フィリピン大キャンパス内に根付いた貧困層住宅街の大学による排除計画と、インドのデザイン大の堀一つ隔てた貧困層住宅との共存状態といったように大学と地域との関係もさまざまだった。



フィリピン大デリマン校キャンパス

学生向けサーヴィス刷新も、UCLAが、スタンフォード大、キャンベラ大、グラスゴー大よりも大きなスポーツジムを構内に開設したように、多様なニーズに応える大学の奮闘の一つである。

言葉にするために

AYAKO
KOOGA

古賀 文字

大学院人間文化研究科 博士後期課程
社会生活環境学専攻 一 回生

久しぶりの帰省。弟と二人で、家の近くのレストランに食事に行った。福祉工場と一体化した形で地域にひらかれたその場所は明るく、たくさんの知的障害者たちが働いている。

美味しく定食をいただいている最中、弟が、隣のテーブルに座っているダウン症の青年に対して不意に呼びかけた。養護学校時代の知り合いだったらしい。

隣のテーブルには、青年と、青年の母親らしき女性。「お姉さんですか」と声をかけられた。「はい」と答えると、その女性は、困ったような笑顔でわたしにこう仰った。

「いやまじいわ。この子(息子さん)の妹も、いつかそんな風に兄妹だけで仲良く外出してくれるかしら」

わたしは一瞬言葉に詰まった。何か言おうと思ったが、言葉は出てこなかった。何も言えず、「だじじょうぶですよ」と一言だけ答えて席を立った。

——そしてわたしの中に、何かいたたまれないような思いが残った。その日からずっと、考えていることがある。



知的障害を持つ弟と二人で外出するのは、今やあまり気にならない。といっても、弟が小さい頃は、わたしにもそれなりの葛藤があった。街中でパニックを起

こして走り回る弟を、呆然と眺めることしかしていなかったし、一緒に買い物に行くのも気が進まない時代もあった。いろんな感情がねじれ、けれどその正体を知りたいと思ひ、わたしは『障害』というものについて勉強を続けることにした。……そうしてもう何年も経つ。ボランティアやアルバイトとして、知的障害を持つ人々と、その周辺にいる人々との間を行き来した。何年経っても、何も決定的なことが掴めないまま、時間だけが過ぎていく。いつのまにか、初めに何を疑問に思っていたのが忘れていた。

この時の出会いは、わたしを根本的なところへ引き戻してくれたのだと、今になって思う。あの日あの時、わたしは言葉に詰まった。その時、確かに何か『言いたい』ことがあった。けれど、それは言葉にならなかった。それは何か？ それは、どういふことか？ ——そのことを、今も考えている。

わたしはあの時、女性の言葉を受け止め、自分自身の言葉で応対することができなかった。研究の書物の言葉で答えよ

うと思えばできたかもしれない。けれど、その時わたしは、思ったことを語れなかった。自分が弟とのやり取りの間で学んできたこと、その楽しさつらさ、あるいはそういう言葉にはまとめられないものを、ともかくにもわたしは語るべきできなかった。

何を『言いたい』と思ったのか。何を伝えたかったのか。あのときから、その答えを探すが、わたしにとつての挑戦のように感じられている。否、挑戦しると言われている気がする。自分のこれまでの体験と、目の前の出来事のごちうをも、言葉にすること。そしてそれを、人に届けられるようなものに変えること。そうやって、世界と自分をつなげていくための努力をすること。勉強や研究、さらには様々な日常を生きながら、そういうことをしろと言われている気がする。

ただの気のせいなのかもしれない。けれど——もう二度と会うこともないかもしれないが——もし、次に会う機会があれば、その時には、何かを言えるわたしでありたいと思う。

私の留学

宮 水晶 理学部 生物科学科 二回生

SUISYO
MIYA

二〇〇三年九月二十四日の夕方、一隻の貨客船が神戸港に着きました。天気は曇りやや雨でした。この船に乗って、私は初めて日本へ来ました。六月に中国で大学受験したばかりの私は、日本語の勉強を三ヶ月しかしていなくて、「こんにちは」や「ありがとう」ぐらいの言葉しか話せませんでした。入国の手続きも英語で答えました。

私は一人っ子なので、家事も料理もあまりしたことがなくて、日本へ来る前に母がとても心配していました。逆に、一日も早く独立したい私にとっては、そうした心配は全然要らないと思っていました。しかし、船から降りた瞬間に、新生活に対する緊張感、外国での淋しさ、そしてこれからの生活への不安がざつと頭の中に来てしまっ、すごく泣きそうになりました。

十月、日本語学校の入学式を迎えました。学校は大阪の天王寺区にある日本学生支援機構大阪日本語教育センター「元関西国際学友会」です。いろんな国の人々が日本語を勉強するためにここに集まっています。そして、本科B組というクラ



日本語学校のクラスメート(夏祭りの後)

毎日日本語の環境で勉強しやすくなります。三ヶ月ぐらいで、テレビのドラマとかを見て意味が大体分かるようになりました。そして、ニュースも、新聞も分かるようになりました。その時、自分もびっくりするほど、日本語を勉強していました。

あつと言つ間に、二〇〇四年の正月を迎えました。そして、成人式でした。二十歳になりました。中国では、二十歳って、あまり特別の意味がありません。しかし、日本で

は二十歳って、いろんな権利を与えられ、お酒やタバコなどもできて、大人の世界に入る年になります。私もこの年で独立し、日本で留学することができてとてもうれしいです。それから、忙しい受験生活が始まりました。一年間頑張った末、とうとう日本語能力試験の一級を取って、順調に奈良女に入学することができました。大好きな生物を勉強しています。



はじめて大阪城へ行きました

大学に入って、日本人の友達がたくさんできました。一緒に授業を受けたり、昼食を食べたりとても楽しいです。

先生の話に追いつけない時がよくありますが、いつも丁寧に説明してくれて、とてもありがたいです。

四月、桜の季節になりました。桜の花に恵まれた奈良女は、一番魅力的だと思います。日本の伝統の源となる奈良女で、留学生生活を続けていきます。この留学の経験は、きっと私の一生の宝物だと思います。

MEMORIES

韓国への留学

KANA
ASANO

浅野 加奈

大学院人倫文化研究科 博士前期課程
生活環境学専攻 食物科学コース 一回生

最近韓流ブームで、韓国ドラマがテレビで放送されています。私はそれ以前から韓国ドラマを見ていましたが、特にその中で食事の場面がたくさん出てくることに注目をし、韓国では毎日の生活をさちんとすることで健康でいようという考えが強いのではないかと思い、ソウル大学に留学しようと決意しました。

ソウル大学はとても広く、キャンパス内をバスやタクシーが走っています。また山が高くそびえたち毎日登山に行く人々をたくさん見かけました。

はじめて大学に行った時とても驚きました。日本の大学に比べるとスケールが全く違ったからです。私は三月から韓国へ留学に行ったのですが、韓国語の能力が充分でなかったので半年間はソウル大学にある語学スクールに通いました。語学スクールは朝九時から午後一時まで、月曜から金曜まであり、私はそこで韓国語を基礎からじっくり学びました。ここでは、韓国語を学び大学への進学を考えているいろいろな人たちが学びに来ていて、みな目的を持った人々なので授業がとても活気があり、毎日学校に行くのが楽しみでした。

私は三学期（一学期が約十週間）ここで学んだのですが、いろいろな国の人たちと一緒に韓国語を学び、また韓国語を学びながら各国の生活習慣や文化の違いに

ついても学ぶことができ、貴重な体験をすることができたと思います。



清州島へ旅行に行った時の写真です

そして九月からは午前中は語学スクールに通い、午後からソウル大学で講義を受けるという生活になりました。語学スクールはレベルが上がるにつれて習う内容も難しくなり、予習・復習にとても時間がかかりました。また大学の授業は語学スクールとは比べものにならないほど私にとって難しかったです。

話すスピードが全く異なり、知らない単語がとても多く、はじめの数週間は学校へ行くのがとても苦痛でしたが、同じ授業をとっていた人たちが、授業を受けている時私から分らない言葉などがある、と、ノートに書いて説明をしてくださっ

たので、一人ではなかなか理解できなかった講義も少しずつ理解できるようになりました。

講義の中で「日本の食文化」について発表する機会があったのですが、この発表を通して異国の人たちに母国について伝えるには、まず自分自身が十分に母国の文化を理解しておく必要があると感じました。

まわりの人たちが支えてくださり、大学での生活も無事終えることができとても感謝しています。九月から十二月の間、ソウル大学で授業を受けて私自身とても刺激をうけることができました。約十ヶ月という短い期間でしたが、たくさんことを学び、体験することができ本当に充実した日々を送ることができました。

韓国で出会った人々の中で日本に興味を持ち、留学をしたいという方がおられたのですが、その方が日本に来られたとき今度は私が日本を案内し、韓国と日本の架け橋になれたらよいなと思っています。

Challenge

原 点

野々部 牧絵

大学院人間文化研究所 博士前期課程
言語文化学専攻 平成十六年度修了
静岡県立佐久間高等学校教諭MAKIE
NONOBE

昨年度からスタートした教員生活の始まりは、新鮮な驚きに満ちていた。まず、土地が違う。私が赴任したのは、静岡県の北西部、豊かな自然に囲まれた佐久間町だった。浜松から車で走ること約二時間。幾つかのトンネルやダム、くねくねとした山道を通り抜けると佐久間町にたどり着く。町内は、夜七時を過ぎると真っ暗になり、最寄りのコンビニまでは、車で山を下ること四十分。小さなコミュニティの中で、良い噂も悪い噂もあっという間に広まる。

けれど、大変なのはそれだけではなかった。生徒たちを理解し、適切な指導法を模索するのに非常に時間がかかった。近辺に高校がないため、地域の大多数の生徒たちが佐久間高校にやってくる。生徒たちの気質は、素直で健やか、輝くようないい笑顔を持っている。だが、その一方で、基礎的な学習習慣や競争意識に欠けるところがあり、生徒間の学力の差も非常に大きい。大学進学から就職まで進路も多岐に渡る。私自身が、いわゆる進学校出身で、頭では色々な学校があると理解しているつもりだったが、実際は、その多様さへの心の準備ができていなかった。授業をしても、こちらが「わかるだろっ」と思っていたことを生徒が理解していない、準備不足、説明不足で、授業中、生徒が退屈するような顔をしている。元々、

言葉を使って考える楽しさを教えたいと考えて、高校教諭を選んだ自分にとって、教科での失敗は非常に堪えた。また、知識、経験、運動神経が三拍子揃って足りないにも関わらず、硬式テニス部の顧問を勤めることになり、右も左もわからず戸惑ってばかりいた。そうした状態が続いて、一学期が終わる頃には、私が今まで持っていた価値観も小さな自信もガラガラと音を立てて崩れ去ってしまっていた。

しかし、そこから抜け出す契機をくれたのが、両親や大学時代の友人たち、そして学生時代の自分だった。両親には、同じ教員の立場で多くのアドバイスをもたらした。夏休みに奈良を訪れた時に会った友人たちは、私と同じように社会人や学生として、自分の道を模索している最中だった。皆で話しているだけで気持ちが見るくなり、忘れかけていた負けん気も湧いてきた。

「とにかく授業を何とかしなければ。」そう思って、大学の図書館を使わせてもらい、教材研究に没頭した。机に向かうことほぼ一日、生協食堂で昼食を摂って休憩した。たった四ヶ月ぶりなのに、懐かしい気持ちがあった。休日には仕事をしているはずなのに、妙に充実感があつた。そして、改めて確認することができた。大学の時、ゼミ発表や論文で学問の世界

に入り込んだり、友人たちとくだらない話をして時間を潰したり。そうした経験の一つ一つが、今の自分にプラスの影響を与えていることを。

迎えた二学期、私は以前より余裕を持って教壇に立つことができた。授業中、ふとした時に学生時代の話をすると、生徒たちは、喜んでませかえしてくる。そうして、少しずつだが、授業のペースを掴むことができるようになった。同時に、部活も生徒たちとの信頼関係を築くことができるようになってきた。

今年度、私は一年生の担任になった。初めての担任、三十六人対一人は、目まぐるしくて大変だ。けれど、また、ふとした時に話してみようと思う。何かに没頭する楽しさや、多くの人との出会いのことを。それが、今の自分の原点だと思おうか。

宿泊研修でのクラスの集合写真



ストップ・ザ・理科離れ

東 さおり

理学研究科 物理学専攻修士課程
平成八年度修了
私立奈良大学附属高等学校教諭



SAORI
AZUMA

「わあ、不思議やなあ」
「何でこんなふうになるん？」
「これ、こうなるんや。おもしろー」

好奇心たっぷりの子供たちからそんな声
が聞こえてきます。青少年のための科学
の祭典。奈良でも七年ほど前から実施さ
れています。この声を聞くと、中高生の
理科離れとか、信じられないくらいです。

青少年のための科
学の祭典は、大学や
小中高の先生方、ま
た学生たちによって
科学の楽しさを実感
できる展示や工作、
実験が行われるイベ
ントです。子供、大
人を問わず毎年多く
の方が遊びにこれら
れています。昨年は奈
良教育大学で行われ
ていました。私も数
年前から、有志の先
生方による理科勉強
会に参加させていた



昨年11月、奈良教育大学で行われた青少年のための科学の祭典の1シーン

だいていることが縁で、実行委員に名
を連ねさせていただいています。でも
実はその前、学生の頃に見目先生と、
私を含め三人の学生とで大阪の科学の
祭典に参加したのが、このイベントと
の初めての出会いでした。出展者とい

う立場でしたが、他のブースに行っては
童心に帰ったように楽しんでいたのが今
でも忘れられません。

私は修士課程修了後、高校教諭となり、
教育の現場に立つようになりましたが、
そこで「理科離れ」の生徒たちの様子を
目の当たりにしました。どうしても実験
や観察の機会が少なく、物理や科学的現

象が数値計算で済ませ
られてしまう。すると、
理科＝計算＝嫌なモノ、
こんな定式が生徒たち
の中でできあがってし
まうのです。中には計
算は得意で、物理など
の問題は解けるから嫌
じゃないという生徒も
いるのですが、現象に
対する意識は薄いよう
に見えます。数値とし
ては答えを出せるけれ
ど、それはどんな状況
になっているかと聞く
と首を傾げたり、「答

えは出たんだから、そんな関係ない」
という返事が戻ってきたり。とてもさび
しい気持ちになります。子供の頃は誰し
も好奇心がいっぱいだったはずなのにそ
の気持ちはどこへ行ってしまったのだろ
う。

青少年のための科学の祭典は、身の回
りの科学を楽しく実感でき、好奇心をく
すべるイベントです。実行委員の話はい
ただいた時、学生時代に参加して楽しかっ
たことを思い出し、正直嬉しかったです。
今関わっている生徒たちはもちろん、多
くの方々に科学の楽しさを伝えるお手伝
いができるなんて、本当に光栄な気持ち
でした。一見子供向きのイベント？と言
われますが、とんでもない。中高生はも
ちろん、大学生や一般の大人でも童心に
帰って楽しめます。またその日にもらえ
る冊子もとても充実していて、後日になっ
て自分でやってみようかなと思ったり、
当日のことを思い出して「ふふっ」と笑っ
たり、ほら、このように科学を身近に感
じられるようになれば、理科離れも減少
するようになる気になりませんか？

今年も青少年のための科学の祭典奈良
大会は、十月十四・十五日に奈良高専で
行われます。気候の良い時でもあるので、
是非多くの方々に足を運んでもらい、子
供の頃に持っていたあの『好奇心』をま
た膨らませてほしいです。当日、奈良高
専でお会いしましょう！

今

宇野 裕梨

生活環境学部人間環境学科 生活システム学専攻
平成十五年卒業
キヤノンマーケティングジャパン株式会社秘書室勤務

YURI
UNO

「宇野裕梨、秘書室配属！」二年前、一瞬にして私の人生を変えた一言。

大学時代に趣味であった写真がきっかけで、カメア会社に就職。漠然とではあったが、自分なりに未来像を描いていました。この言葉を耳にするまで、よもや、この先秘書としての道を進むとは思っていませんでした。しかし、社長の元に挨拶に連れて行かれ、秘書室と刻まれた社員証を手渡され、秘書としての私のこれからが幕をあけたのです。あれからちょうど二年が経過。今、振り返ってみると、正直、怒涛の二年間でした。でもそれと同時に、自分にとってかけがえのない深い時間であったと思います。

最初の一年間は、物理的にも心理的にもとにかく全てが手探りで、秘書とは何なのかを理解することから始まり、今まで全く無縁であった、会社の組織や経営についての知識、秘書として必要なスキルを身につけることに悪戦苦闘の毎日でした。嬉しくて流した涙と同じくらい、悔し涙も流しました。ここまで自信を喪失したのも初めてでした。多くの方は、秘書と聞くと「綺麗な仕事」というイメージを持たれると思います。現に、以前の自分もそう思っていました。しかし、現実とは違います。目の前にいるだけで固まってしまうような、その道で何十年と経験を積んできたプロを相手に、とにかくス

ピードと正確性が勝負の仕事。仕事の途中で、自分のことはとにかく後回しで、何より自分のボスのことを優先。自分のペーソなんて許されない。もちろん、今まで未知だった世界で日常を過ごす面白さや、やりがいもありましたが、私には、納得できないことがあったり、何となく息苦しく感じたりと、正直、逃げだしたくなることもありました。「こんなはずじゃなかった。好んでこの仕事をしているわけではないのだから」と。そして、自分の希望で進んだ道ではないからこそ、逃げだすことは容易でした。でも、その度に、自分が納得できる状態にしようとして、幾度と軌道修正を試み、とことん踏ん張りました。今思えば、自分が進んでいる道が正しいかどうかはわからないという不安だらけの状態で踏ん張れたのは、ただの意地にしかならなかつたのかもしれない。でも、友人、両親をはじめとする良き理解者と、私にとって宝物である奈良女子大学での経験に支えられ、とにかく現実と向き合い、「今」を大切に毎日を過ごしました。

きっと人生には、見えない力というものが存在していて、時にそれは自分の意と大いに反する状況を作ることがあると思います。そんな時、逃げ出したくなると思います。でも、そんな時だからといって、目の前の現実ととことん向き合い、一つずつ丁寧に生きていくことが、どれだけ自分のその後を豊かなものにしてくれるかを、この二年間で知りました。



キヤノンマーケティングジャパン株式会社 外観

先輩の皆さん、大学生活も一緒だと思います。どんな事情があるにせよ、まずはとにかく、踏ん張ってみてください。後々それが、必ず自分の強みとなり、人生の守り神となってくれます。

“今”を大切にできていますか？

佐保会だより

「佐保塾」の一年

昨年四月、佐保会では新しく「佐保塾」を開設しました。この塾は地域への貢献につとめる母校奈良女子大学への支援の一端として、広く地域の方々と接して共に学び、共に文化活動を楽しく展開させていくことを意図しています。



佐保塾開設の準備中に最初に訪れた参加者は二頭の鹿でした

まず、昨年四月から今年三月までの一年間に開かれた塾の行事をご紹介します。

- 第一回「たのしい折り紙」① 平成十七年 四月
 - 第二回「たのしい折り紙」② 七月
 - 第三回「キッズ英語教室」 七月
 - 第四回「奈良の近代文化と和風意匠を考える会」 九月
 - 第五回「たのしい折り紙」③ 十二月
 - 第六回「寺社めぐり」その1 平成十八年 一月
 - 第七回「たのしい折り紙」④ 二月
 - 第八回「寺社めぐり」その2 三月
- 「たのしい折り紙」は、端午の節句に合わせて兜や鯉のぼりの折り紙で始まり

ましたが、多くの方々からのご要望もあって、シリーズとして、七夕、クリスマス、雛祭りという一年の行事にちなんだ折り紙の教室開催となりました。

折り紙教室講師の三谷幸先生は佐保会員でもあり、折り紙だけでなく、それぞれの行事にかかわる物語の解説もまじえて指導されましたので、参加者には大変喜んで頂きました。

「キッズ英語教室」は夏休みを利用して、小学校低学年の児童を対象に、三日間開かれました。こちらの講師も佐保会員で、長く海外生活を経験されたキャンベル・久美子先生です。付き添いのお母さん方もごいっしょに、毎回二時間のオールイングリッシュのレッスンをおこないました。この教室に参加された小さい方々の今後が楽しみです。

第四回は奈良女子大学生活環境学部長上野邦一教授の「古都奈良の和風木造建築の特徴について」の講演の後、参加者



東大寺森本別当(右)の講演前に挨拶される生物理事長

には、国の登録有形文化財に登録された佐保会館を見て頂きました。今年の一月からは、新しく寺社巡りを企画しました。一月に東大寺、三月に春日大社を訪問しましたが、東大寺では森本公誠別当の御講話と三月堂・四月堂の拝観、春日大社では葉室頼昭宮司の御講話のあとの直会(昼食・神米粥)、宝物殿の拝観などを行いました。どちらも百名を超える方々に参加していただき、奈良の寺社についての心を深めて頂いたことと思います。

なお、寺社めぐりその三として、次回は六月二十八日に薬師寺を訪ねることを企画しています。

以上のように「佐保塾」はやっと歩み始めたばかりですが、この間、テレビ放映、新聞紙上への紹介など報道関係の方々のお力添えもあって、次第に地域にその存在を知って頂けるようになってきました。改修工事が完成しましたら、新しい佐保会館で、ますます多様な企画、活動をして行きたいと考えています。

(文責 秋里三和子)



新任教員紹介

①所属・職名 ②専攻分野 ③出身地・出身校(学部、学科別50音順)

新・再任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科・専攻分野

SATOSHI INA 伊奈 諭

①総合情報処理センター 教授
②情報工学(CG、計算視覚物理など)
③愛知県
愛知県立岡崎高等学校
名古屋大学理学部(物理)
名古屋大学大学院工学研究科修士(応用物理)
図書館情報大学院博士(情報メディア)



伊勢の伊に奈良の奈を書きます

電話口での常套句。実は奈良の土を踏むのは小学校の修学旅行以来です。団塊の世代の先頭を切ったあの受験戦争、岡高のライバルが進学したのが奈良女でした。“なぜだ”。あのときの驚きは今も。学生さんには是非マイパソコンを持ってください。在学中には減価償却すること。本学ではユーザ(学生や職員)の立場に立った情報教養教育、情報センター活動ができるようになることが望みます。

KAZUMI OKUMURA 奥村 和美

①文学部
言語文化学科日本アジア言語文化講座 助教授
②上代日本文学
③京都府
京都女子高校
京都府立大学文学部
京都大学大学院文学研究科



掌

赴任して約一ヶ月、奈良女子大学の学生を見ると、なんだか痛ましく思えることがあります。高い理想を掲げながらそれにはなかなか到達できない焦り、そしてまだ何者でもないという不安、決して笑われまいとする自尊心の高さ、それらで身動きが取れなくなっている状態が透けて見えるからです。そういう心を、少しでも受け止めることができる一つの掌になればらと思っております。

TAKAO YOSHIDA 吉田 孝夫

①文学部
言語文化学科ヨーロッパ・アメリカ言語文化講座 助教授
②ドイツ文学
③鳥取県
鳥取県立倉吉高等学校
京都大学文学部
京都大学大学院文学研究科



四つめの故郷

ひとたび居つくと、その場所にとっても強い愛着を感じて、なかなか腰を上げられない。新しい環境に適應できず、故郷を思っで長く悶え苦しんでいたはずなのに。大学生活をすごした京都も、留学生生活をすごしたミュンヘンも、当初の予定よりかなり長い時間になってしまった。まだ日々ドキドキしている状態だけれど、この奈良女子大学もまた、長期の滞在となりそうな気がします。

MASAHIKO TANIGUCHI 谷口 雅彦

①理学部 数学科構造数学講座 教授
②解析学
③奈良県
奈良女子大学文学部附属高等学校
京都大学理学部
京都大学大学院理学研究科



里帰りなんです

成人するまでのほとんどの期間は、奈良公園が遊び場でした。加齢と共に環境の変化にうまく対応できなくなってきた今日この頃ですが、その「遊び場」の近くの職場に移れて、とても感謝いたしております。さて、専門の数学はそれ自身がとても面白い研究領域なのですが、その基礎的な思考法は現代社会での基本装備の一つでもあります。その獲得のための教育にも努力いたしたいと思っております。

ETSUZO OKUMURA 奥村 悦三

①文学部:教授 文学部長
②言語文化学科 日本語史



国立大学が国立大学法人になって、どこが一番変わったかと言えば、その活動が、何かにつけ評価され、その評価に応じて賞罰を受けることとなったことがあげられましょう。かつて学生を採点するだけの存在であった教員が、外部から採点されるようになったのです。

人間および人間の活動を全体的に評価することは、それらがあまりに多面的なものであるだけに、ほとんど不可能だと思えるのですが、しかし、正しく評価してもらえ一まして、自分にとってうれしい点を付けてもらえる一ことを期待しがたいとしても、外から見て認められてよいはずの仕事をしようとする姿勢は大切なものだと思いますので、文学部長を再度務めるこの1年、できるだけのことはいしたいと思います。

KENJI IKEHARA 池原 健二

①理学部:教授 理学部長
②化学科 生物化学



少子高齢化時代に入った今、大学への進学希望者数が減少するなど大学にとって困難な状況が生まれつつあります。また、中期目標・計画や自己点検・評価、認証評価などと大学が評価される時代にも入っています。この重要な時期に理学部長を任せられたことになるのですが、このような時にこそチャンスが生まれると前向きに捉え、私なりに精一杯の努力を続けることで少しでも理学部や大学の発展に寄与できればと考えています。

SHIGENOBU YANO 矢野 重信

①大学院人間文化研究科:教授 人間文化研究科長
②共生自然科学専攻 生体機能関連化学、錯体工学



人間文化研究科長を拜命してからこれまでの二年間、どのようにしたら本学大学院が21世紀に輝く大学院になりうるかを模索してきました。幸い関係の皆様が多大な御尽力により、21世紀COEならびに大学院GPが採択され、本研究科のいっそうの発展が期待されます。皆様と手を携えながら男女共同参画社会実現のために、知性と人格を兼ね備えた人材育成のための基盤整備を図りたいと決意を新たにしております。そのためには社会人への門戸開放と大学院の重点化は必須と思われま。格別の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

NOBUYUKI SAKAMOTO 坂本 信幸

①大学院人間文化研究科:教授 附属図書館長
②比較文化学専攻
日本アジア文化情報学 上代国文学



日本最初の図書館は、奈良時代に作られました。石上宅嗣卿の開いた「芸亭」です。いまの一条高校のあたりにあったとされています。この度その奈良の地にある大学の図書館長を務めさせていただきますことになりました。日本の古典を研究する私にとってはまさに身の引き締まる思いです。

図書館が初めて開かれた地というだけでなく、学問もまた初めて行われたのが奈良です。学問の由緒深い奈良の地で学ぶ喜びを、皆さん是非図書館に来て味わってください。

TOMOKAZU YOSHIMURA
吉村 倫一

①大学院人間文化研究科
共生自然科学専攻機能性物質科学講座 助教授
②コロイド化学、界面化学
③宮崎県
鹿児島県立鹿児島中央高等学校
熊本大学工学部応用科学科
熊本大学大学院自然科学研究科生産科学専攻



研究を通して実用化へ

現在、「環境にやさしい」とか「地球にやさしい」という言葉をよく耳にしますが、私はこれらを意識しながら研究を進めています。洗剤や化粧品などには界面活性剤と呼ばれる物質が含まれています。私の研究は、糖やアミノ酸などを原料に用いた新規な界面活性剤の創製を行い、その物性を詳しく調べることです。そして、将来、自ら設計した界面活性剤が実用化されることを目指しています。

TOSHIO WATANABE
渡邊 利雄

①大学院人間文化研究科
共生自然科学専攻生物環境科学講座 教授
②マウス分子遺伝学・分子細胞生物学
③東京都
福岡県立小倉高等学校
東京大学理学部生物化学科
東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻



「あお」にまつわるエトランゼ

人生いたるところに青山（せいざん）ありで、研究の分野も拠点も動いてきました。がん細胞の脱がん化と分化の研究を行い、ドイツ留学を機にマウスの分子遺伝学を導入し血液幹細胞、免疫細胞の発生を明らかにし、最近では細胞内の物質輸送も解析しています。研究は、分け入っても分け入っても青い山です。あおによし奈良の都でどんな展開があるか、楽しみです。よろしくをお願いします。

MASAMI TAKATA
高田 雅美

①大学院人間文化研究科
複合現象科学専攻複合情報科学講座 助手
②情報工学
③広島県
広島県立尾道北高等学校
奈良女子大学理学部情報科学科
奈良女子大学大学院人間文化研究科情報科学専攻
奈良女子大学大学院人間文化研究科複合領域科学専攻



さくら

今年は、桜が4月に入ってから咲いたおかげで、学内で桜の花を楽しむことができました。桜をみると、奈良女子大学に来たのだなという気分になります。最近知ったのですが、大学の校章は八重桜をイメージしているそうです。八重桜の花言葉は「理知に富んだ教育・豊かな教養・善良な教養・しとやか」。そんな花言葉に恥じないよう、微力ながら私ものがんばっていきたく思います。

JYUNICHI MATSUZAWA
松澤 淳一

①理学部 数学科構造数学講座 教授
②代数学
③東京都
東京教育大学附属駒場高等学校
東京大学理学部数学科
東京大学大学院理学系研究科数学専門課程



数学とは

数学は、人が自然現象を理解し記述するための言語体系です。現実世界でおこっている様々な自然現象も、数理的な記述を通して見ると、より深く理解することができ、それまでとは違った自然観が得られます。こうした数学の効用と面白さをお伝えしていきたいと思っています。

MASARU KUBOTA
久保田 優

①生活環境学部 食物栄養学科 教授
②小児栄養学、癌と栄養
③大阪府
大阪府立天王寺高等学校
京都大学医学部



新天地、新分野への挑戦

神戸中央市民病院小児科部長から就任した「異色」の存在です（少なくとも当人はそう思っている）。前職の京都大学助教授時代は主として小児がんの基礎的研究に従事していました。神戸に移り小児医療と日本の家族社会の危機を再認識しました。その経験を生かして、50歳半ばの挑戦ですが「小児栄養学」という新分野を開拓したいと考えています。

AKARI KUBOTA
久保田 朱里

①生活環境学部 食物栄養学科 助手
②栄養化学
③滋賀県
滋賀県立虎姫高等学校
岡山県立大学保健福祉学部栄養学科
滋賀県立大学人間文化研究科生活化学専攻



「恩師の言葉」

「先生」の言葉は、学生の胸に深く刻まれるものだと思います。恩師の言葉は、時に励まされ、考えさせられ、自分を成長させてくれるものです。それゆえ教育に携わる者は、その言動に責任があり、志高くあるべきだと信じています。私もまだまだ勉強中の身ではありますが、学生の成長の手助けができればと考え、研究・教育に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

TADAYOSHI UCHIDA
内田 忠賢

①大学院人間文化研究科
社会生活環境学専攻 社会・地域学講座 教授
②歴史・文化地理学、日本民俗学
③三重県
三重県立四日市南高校
京都大学文学部
京都大学大学院文学研究科



「奈良女」と「お茶大」

新任としての一番の特徴は、前任校が「お茶の水女子大学」だということでしょう。大好きな学校で、12年間勤務しました。今度は奈良女です。女高師の伝統を引く東西の両国立女子大学に専任教員として勤務した者はいないという噂（未確認）があります。第1号かもしれません。ともかく、奈良女の「名門復活」の一端を担うよう頑張ります。また、姉妹校たる両大学に役立つ仕事も心がけます。よろしくお願いいたします。

E「学園だより」の内容や紙面の改善のためのご意見やアイデア
(記入補充欄)

き
り
と
り

大学会館2階娯楽室リニューアル、 3和室畳替えしました

環境整備の一環として、大学会館2階娯楽室の壁紙貼付工事(昨年9月)、板畳及び上がり框取替補修工事(今年1月)をし、娯楽室が明るく広く見え、きれいになりました。

2階娯楽室、2階和室(大和)及び3階和室の畳替え・障子補修をしました。2階和室は壁がひびが入っていて、少し薄暗かったので壁の補修をしました。(今年3月)明るい



雰囲気になりました。ご利用ください。(大学会館は月～土曜日(年末年始・祝日除く)の朝9時～夜9時まで利用できます。)

また、合宿所廊下及び台所をワックスがけ清掃しました。(今年3月)台所は床がきれいに、換気扇もピカピカになりました。使いやすくなっています。

奈良国立博物館・京都国立博物館 キャンパスメンバーズに入会しました

本学は、奈良国立博物館と京都国立博物館のキャンパスメンバーズに入会しました。

この制度は、国立博物館と大学等が連携を図ることによって、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を学ぶ場や機会を提供することを目的として新たに始まったものです。

本学学生の教育・研究や文化活動の上でも大いに役立つものと考え、本制度に入会することしました。

本年5月15日から、本学学生は学生証を提示することにより、奈良国立博物館及び京都国立博物館の平常展を無料で観覧することができます。ゼミ等による引率教員については、団体一般割引料金が適用されます(学生20名につき、引率教員1名は無料)。

また、特別展については、入館料が必要となりますが、学生証を提示することで、団体割引と同様の割引料金で観覧することができます。(ただし、正倉院展など一部の展覧会では、取扱いが異なる場合があります。)

このほか、博物館の施設利用の割引や博物館が刊行する研究誌や展覧会図録の大学への無料提供などの特典があります。

学生の皆さんには、是非ともこの制度を活用していただき、博物館に親んでいただくとともに、学習や文化的な活動にも役立てていただくようお願いいたします。

制度の詳細については、奈良国立博物館及び京都国立博物館のホームページをご覧ください。本学学生生活課へお問い合わせください。

後期分授業料免除について

経済的な理由により、授業料納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる学生、又は、学資負担者の死亡、風水害等による被災などの特別な事情がある学生の授業料免除申請に対して、審査のうえ、授業料の全額又は半額を免除できる授業料免除の制度があります。

本年度の後期分授業料免除出願受付等は、次の日程で行います。

■出願書類交付期間：7月3日(月)～9月29日(金)

■出願期間：9月22日(金)～10月4日(水)

■出願書類交付・提出先：学生生活課奨学援助係

生活環境学部新入生合宿研修

今年度は、生活環境学部の食物栄養学科、生活健康学専攻及び住環境学科の新入生を対象にして、4月14日(金)、15日(土)に京都府立南少年自然の家(京都府南山城村)において実施しました。1日目は教員及び先輩との懇談で大学生活を送るうえでの心構えを話し合い、2日目はモクモク手づくりファームでウイナー作り教室に参加し、楽しく充実した1泊2日の合宿研修でした。



学生相談室から

●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。

話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。

相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。

内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

夏期休業期間中は月曜と木曜のみ開室

8月第3週と第4週、12月29日～1月3日、入学試験日(前期・後期)は閉室します。

上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。

TEL.0742-20-3925 Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

●スタッフ

■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)

岩井涼子(火曜日・木曜日)

■カウンセラー

皆藤靖子(臨床心理士)

竹村百代(臨床心理士)

■相談員

千田春彦(教員)

肥山詠美子(教員) 前期

吉川尚男(教員) 後期

黒子弘道(教員)

学園だより読者アンケートのお願い

「学園だより」について、読者の皆さんの声をお寄せください。

お寄せいただいたご回答やご意見は、今後の「学園だより」の紙面づくりに活かしてまいります。

学園だより読者アンケート

ご回答いただく方の所属(回生)をご記入ください。

文学部・理学部・生活環境学部・人間文化研究科

(回生)

教職員 (該当するものを○で囲んでください。)

**** 回答欄 *****

(回答方法:以下の設問の該当する番号を○で囲んでください。)

A 「学園だより」を読んでいますか?

1. よく読む
2. 大体読む
3. たまに読む
4. 読まない

B 「学園だより」をウェブ版で読んだことがありますか?

1. よく読む
2. 時々読む
3. 読んだことがない
4. ウェブ版があるのを知らなかった

C 「学園だより」を冊子で配布することをどう思いますか?

1. これからも必要
2. 印刷部数を減らしウェブ版と併用
3. ウェブ版だけでよい

D 「学園だより」は、これからも必要と思いますか?

1. 是非必要
2. どちらともいえない。
3. 特に必要とは思わない。

E 「学園だより」の内容や紙面の改善のためのご意見やアイデアを自由にご記入ください。

(記入欄が足りない場合は、裏面にご記入ください。)

アンケートにお答えいただきました、破線で切り取って、学生生活課(学生会館2階またはF棟1階)のカウンターに備え付けのボックスへ10月31日までにご投函ください。

ご協力ありがとうございました。

平成18年度就職活動支援行事カレンダー

就職支援室では、就職を希望する学生に対して、各種の就職活動支援行事を企画・実施しています。

就職マニュアル本だけでは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。

行事開催の詳細な内容や実施日時・場所に変更があった場合などは、掲示で順次通知されますので、掲示板をいつも見るよう心がけてください。

【一般就職対策関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	教室	対象
6/8	木	職務適性チェック講座Ⅱ (5/15実施の職務適性チェック講座Ⅰとセットで受講)	①14:50~16:00 ②16:30~17:40	DO65	3回生・M1
6/9	金	Ⅱ.自己分析講座Ⅰ～興味と価値観～	16:30~18:20	E109	3回生・M1
6/16	金	業界・企業研究～職業理解・情報収集～	16:30~17:40	E109	2・3回生・M1
7/10	月	Ⅲ.自己分析講座Ⅱ～能力と夏休み編～	16:30~18:20	E109	3回生・M1
7/14	金	業界研究 ～産業別研究 金融・商社・流通・メーカー等～	16:30~17:40	E109	2・3回生・M1
7/19	水	金融特別講座Ⅰ ～金融と資本市場について～	16:30~18:00	E109	全学全回生
7/20	木	金融特別講座Ⅱ～経済の基礎知識～	16:30~18:00	E109	全学全回生
7/21	金	金融特別講座Ⅲ～ライフプランニング～	16:30~18:00	E109	全学全回生
10/13	金	ナビの正しい活用法 ～登録・利用時の注意(ナビ各社の説明)～	16:30~18:00	E109	2・3回生・M1
10/16	月	Ⅳ.情報収集～ナビ活用と情報ソース～	16:30~18:20	E109	3回生・M1
10/20	金	筆記試験対策セミナー (出題傾向の分析と解説)	16:30~18:10	E109	3回生・M1
11/8	水	V.情報収集のまとめ ～合同説明会とESの基本&履歴書の攻略～	16:30~18:10	E109	3回生・M1
11/10	金	エントリーシート攻略セミナーⅠ (ESへの取り組みや採用側の要求にどう応えるか)	16:30~18:10	E109	3回生・M1
11/13	月	ビジネスマナーセミナー	16:30~18:40	記念館 講堂	3回生・M1
11/17	金	エントリーシート対策テスト	16:30~18:10	E109	3回生・M1
11/18	土	エントリーシート対策テスト (11/17実施と同一内容)	10:30~12:10	E109	3回生・M1
11/27	月	エントリーシート攻略セミナーⅡ (対策テストのフォローセミナー)	16:30~18:10	E109	3回生・M1
11/下旬～ 12/中旬		キャリアデザインⅠ～Ⅳ			1・2回生
12/8	金	個別面接・グループディスカッション対策講座	16:30~19:40	G203 G204	3回生・M1
12/9	土	個別面接・グループディスカッション対策講座 (12/8実施と同一内容)	13:00~16:10	G203	3回生・M1
12/16	土	Ⅵ.面接対策講座(総まとめ) ～就活最終チェック・面接ロールプレイング～	①10:00~12:40 ②13:00~15:40	E107 G203,G204	3回生・M1
19. 1/27	木	学内合同企業説明会	13:00~16:00	学生会館	3回生・M1
2/中旬		「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催)			3回生・M1

【教員対策関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	教室	対象
6/28	水	教員対策講座①～教員とは～	16:30~18:10	E109	2・3回生・M1
7/5	水	教員対策講座②～教員試験の対策～	16:30~18:10	E109	2・3回生・M1
9/4~ 9/15	月 /金	教員採用試験対策夏期集中講座 (現代社会・日本史・世界史・地理・生物・物理・地学・ 数学・教育原理・教育法規・教育心理・教育史・教育 答申・小論文・面接対策・集団討論・模擬授業) (9/4~9/8,9/11~9/15の10日間)	各日 10:40~16:20	E109	3回生・M1
12/月上旬		教員試験合格者体験報告会)内定者就職体験報告会			3回生・M1

【公務員対策関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	教室	対象
6/5	月	直前 公務員試験対策講座 (面接・グループディスカッション)	16:30~18:40	G203 G204	4回生・M2
6/7	水	直前 公務員試験対策講座 (面接・グループディスカッション)(6/5実施と同一内容)	16:30~18:40	G203 G204	4回生・M2
6/30	金	公務員対策講座①～公務員とは～	16:30~18:10	G201	3回生・M1
7/7	金	公務員対策講座②～公務員試験の対策～	16:30~18:10	G201	3回生・M1
8/8~ 8/24	火 /木	公務員対策夏期集中講座 (憲法・民法・行政法・経済原論・数的処理) (8/8~8/11,8/17,8/18,8/21~8/24の10日間)	各日 9:00~14:30	E109	3回生・M1
19.2/中旬		近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験説明会			

【インターンシップ関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	教室	対象
6/3	土	県インターンシップ制度 実習希望企業との面接会	13:00~16:00	第一体育館 他	2・3回生
6/24	土	県インターンシップ制度 事前研修会	10:00~16:30	講堂 他	2・3回生
10/7	土	県インターンシップ制度 実習発表会 (事後研修会)	13:00~18:00	講堂 他	2・3回生